

Flower Origin 産地紹介



やまぐちオリジナルリンドウは5月下旬から開花が始まるため、他産地の品種よりも圧倒的な早期出荷が可能です。また、県内沿岸部の低標高地から中国山地に位置する高標高地の栽培地間でリレー出荷を行います。それにより、同一品種でも長期間にわたり安定的な出荷を実現しました。



やまぐちオリジナルリンドウ振興協議会 会長／植山 正雄



今後も、オリジナルリンドウの生産者及び栽培面積の拡大、実需者のニーズに対応した集荷体制の構築に努めてまいります。

引き続き関係各位に対し特段のご支援ならびにご協力を賜りますようお願いいたします。



西京シリーズは「やまぐちブランド」に登録されています。

山口県で生産される農林水産物及び主な原材料が山口県産100%の加工品を対象に、味や品質を重視した独自の基準を設けて厳選し、登録した商品です。

西京シリーズ

やまぐちオリジナルリンドウ



YAMAGUCHI
ORIGINAL GENTIANA
SAIKYO SERIES

Flower Profile

品種紹介

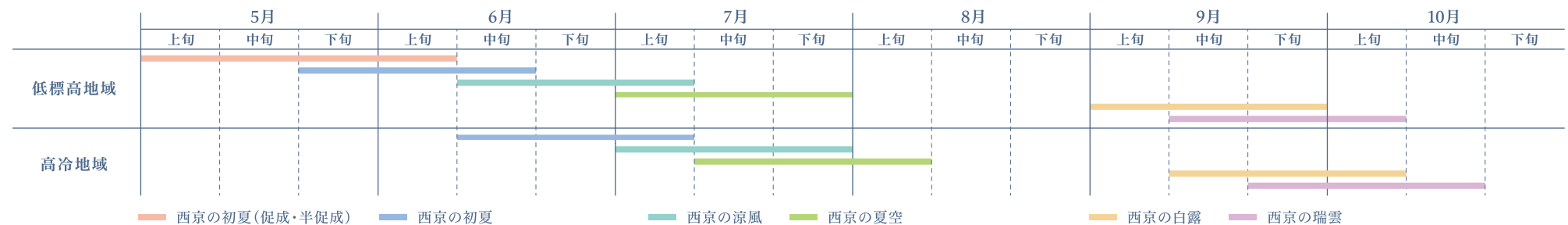
■ 鮮やかな青が特徴の西京シリーズ



- ① 西京の初夏(さいきょうのしよか)
 - 開花期/5月下旬から7月上旬
国内で最も早い
 - 花 色/鮮明な明青紫色でくすみはない
 - 草 丈/約80cm ● 花段数/3~5段
 - 特徴/花色、草姿等のばらつきは少なく、極早生系としては生育特性が優れる。
- ② 西京の涼風(さいきょうのすずかぜ)
 - 開花期/6月下旬から7月中旬
西京の初夏より3週間程度遅い
 - 花 色/西京の初夏より濃い青紫色でくすみはない
 - 草 丈/約130cm ● 花段数/5~6段
 - 特徴/同時期の一般的品種より花つきやボリュームに優れている。
- ③ 西京の夏空(さいきょうのなつぞら)
 - 開花期/7月上旬から8月上旬
西京の涼風より3週間程度遅い
 - 花 色/西京の初夏と同様の鮮明な明青紫色でくすみはない
 - 草 丈/約130cm ● 花段数/5~6段
 - 特徴/同時期の一般的品種より花つきやボリュームに優れている。
- ④ 西京の白露(さいきょうのしらつゆ)
 - 開花期/9月上旬から9月下旬
 - 花 色/既存の青紫系品種と異なる白色と青色の複色でくすみかほとんどない
 - 草 丈/約115cm ● 花段数/5~6段
 - 特徴/同時期の同系品種より花つきが優れている。
- ⑤ 西京の瑞雲(さいきょうのずいうん)
 - 開花期/9月中旬から10月上旬
 - 花 色/深みのある青紫色
 - 草 丈/約130cm ● 花段数/5~6段
 - 特徴/「エゾリンドウ」と「ササリンドウ」のハイブリット種。先端がしっかりと開きボリューム感がある。

■ 各品種の開花期

極早生品種の「西京の初夏」は5月下旬から6月下旬にかけて開花。全国に先駆けて出荷が始まります。それに続き、その他の品種により継続出荷が行なわれます。



Arrangement

西京シリーズのアレンジ

やまぐちオリジナルリンドウ「西京シリーズ」は、鮮やかな青紫色が特徴的です。
落ち着いた和の雰囲気からカジュアルな雰囲気まで、
幅広いアレンジメントに使うことができます。



洋

Western Style

洋風の優しいアレンジのなかであって、
凛とした印象と涼やかさを与えてくれます。

和

Japanese Style



すっきりした佇まいと色合いが、和室に爽やかさと彩りを添えます。
仏花としてもお使いいただけます。

もっとカジュアルに使えるリンドウを

濃厚な青紫色のリンドウ。その威厳のある色合いが好まれ、昔からお盆やお彼岸を中心にお供えの花として使われています。

「身近に使われている花だからこそ、仏花だけではなくもっと様々な場面で使ってもらえたら…。そんな思いから始まったリンドウの品種開発。その道のりは長く険しいものでした。



品種化までの長い道のり

2003年、山口県が県内のリンドウ生産者と連携し、品種育成に取り組み始めました。

優れた特性をもつ株の選抜と交配を繰り返すこと数年。順調に生育したかと思えば、咲いた花が白色だったりピンク色だったり花の色が安定しません。また、思い通りの花が咲いたかと思えば、生育が弱く病気になったり、枯れやすかったり…。品種化するには程遠いものでした。

「もともとリンドウは高山性の植物。山口県の温暖な気候での栽培なんて無理なのかもしれない」。そんな空気が流れ始めていました。



山口県にしかないリンドウ

選抜と交配を繰り返すこと8年。ようやく品種化の候補となる有望系統の育成に成功しました。そのリンドウはどこよりも開花時期が早く、目を引く鮮やかな青紫色。やまぐちオリジナルリンドウ第1号の誕生でした。

オリジナルリンドウは「西京の初夏」と名付けられました。かつて山口が「西の京」と呼ばれていたことにちなみ、和の花文化を大切にしていきたいという思いが込められています。

2013年には県内の産地へ導入開始。育成開始から実に10年が経っていました。

その後も後継品種の育成を続け、現在、5種類のオリジナルリンドウを育成しています。(2021年4月現在)



1. 親株維持

品種を増やしていく際の重要な第一歩。高品質のリンドウをつくるためには、まず良質な種子をつくります。選定した優良な親株にバイオテクノロジーを活用し、培養株として維持・増殖しています。



2. 交配・採種

増やした親株に花粉を受粉させ、種子をつくります。夏の高温時期には稔実しないため、冷房施設で手間ひまかけて念入りに交配する品種もあります。



3. 育苗

2月に苗用の種まきをします。リンドウの種はとても小さくトゲのある形のため、丁寧にまいていきます。5月には苗が大きくなり、定植が可能になります。



4. 定植

リンドウは同じ株から数年間連続で切り花を収穫するため、土づくりを念入りにします。定植は丁寧に行います。



5. 株養成

1年目は収穫がありません。地上部の生育を最大限に促し、翌年からの収穫に備えます。やまぐちオリジナルリンドウの特徴は、1年目から生育が旺盛で、暑さの中でも元気に育ちます。



6. 収穫

2年目からようやく収穫することができます。つべんの節の蕾が色付いた頃が収穫適期です。厳密な規格により選別、高品質のまま消費者の元まで届くように各種管理に気をつけています。

